



バンコク日本人学校の特別支援教育～多様性を認め合える集団を目指して～

特別支援教育コーディネーター 水谷拓也

先日の朝、低学年の教室を巡回していると、みんなが朝の支度をする中、ある子がリュックを机に置くなり、教室を走って飛び出していきました。「荷物を片付けてからだよ～!」と声かけした私に、「Aさんは、たぶんバツタをとりに行ったんだよ。」と隣の席の子が教えてくれました。しばらくすると、A君は捕まえたバツタを持ち帰り、クラスの友達と一緒に興味深そうに眺めていました。15分ほどたってから声をかけると、友達に助けられながらも朝の支度を終え、またバツタに夢中になっていました。

文部科学省の定める「特別支援教育」は、「障がいのある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものである。」とされています。

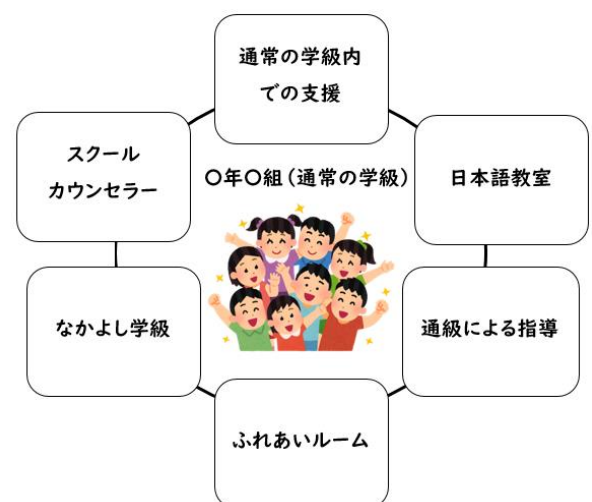
一方、本校の「特別支援教育」は、その元になった英語”Special Needs Education”に近いものだと考えています。すなわち、障がいの有無に限らず、在学するすべての児童生徒について、学びや学校生活に何らかの困難があった場合、適切な指導及び必要な支援を行うことを基本方針としています。例えば、外国にルーツをもつ児童生徒や不登校、LGBTQ などの他、家族の体調不良が原因で不安定になっている場合等も、その対象と考えています。

本校の特別支援教育は、通常の学級での生活や教育活動を中心に据えて、下の図で示したように大きく6つの柱があります。

1つ目は、通常の学級内での支援です。各学級学年で一人一人の実態を把握し、通常の学級に在籍する特別かつ多様な教育的支援を必要とする児童生徒のために、情報共有しながら、教育的ニーズに応じたきめ細かく適切な学習・生活支援を行うことを目的としています。

2つ目は、日本語教室です。日本語教室では、国際結婚家庭の児童や外国やインターからの編入児童など、日本語で学ぶことに困難を感じている、または感じる可能性のある児童に対して、週1～2コマ程度、少人数での日本語指導を行っています。日常会話で使う生活言語には支障がない場合でも、授業で使う学習言語においては、思考したり表現したりするための日本語力に課題がある場合が見られます。日本語の表現と教科の内容を統合して学習することで、十分な日本語力と学力を身に付けることを目的としています。

3つ目は、通級による指導です。特別な支援が必要な児童生徒に対して、各教科等の授業は通常の学級で行いながら、困り感に応じた特別の指導を、週1コマ～2週間に1コマ程度、特別の指導の場（各学年多目的室等）で行うことで、生活や学習上の困難を改善・克服することを目的としています。



4つ目は、**なかよし学級（特別支援学級）**です。なかよし学級は、特別な支援が必要な児童生徒のための学級です。一人一人の児童生徒が必要としている教育的なニーズを把握し、それに基づいて、それぞれの児童生徒がもっている力を高め、生活や学習上の困難を改善・克服するために適切な指導や支援を行います。本校では、通級による指導と同様、通常の学級の一員として生活しながら、必要に応じてなかよし学級で学習するというスタンスをとっています。「少ない人数で、自分にあったペースで、自分にあったやり方で、安心して楽しく学習できる場所」として、なかよし学級について伝えています。



5つ目は、**スクールカウンセリング**です。本校には臨床心理士資格をもつスクールカウンセラーが常駐しており、学習の遅れ、不登校、人間関係、家庭内での親子関係など、日本人学校に通う児童生徒のあらゆる悩みや問題について対話を進めながら、保護者や児童生徒が自分自身で問題解決の道を見出せるよう心理的サポートを行っています。

6つ目は、**ふれあいルーム**です。不登校や長期欠席状態にある児童生徒が、登校することや在籍学級での学習活動において教室に入ること、長時間過ごすことが困難な場合に、学習活動への参加を目指した支援や指導を行うことを目的としています。

バンコク日本人学校では、特別支援教育の充実に力を入れています。しかしながら、限られた人的資源で教育活動を行わなければならないという在外教育施設だからこその制約があります。

その一つとして、なかよし学級には定員を設けています。また、通級による指導やふれあいルームについては、専属の教員が配置できないため、学校として必要と判断した児童生徒にのみ声をかけているのが実情です。また、日本の特別支援教育のように、通常の学級において、支援員という形で、担任以外の大人が継続的に子供の支援に入ることができない状況もあります。そうした状況から、通常の学級での一斉指導よりも、なかよし学級での少人数での指導の方が成長を期待できる児童生徒で、本人や保護者が望んでいる場合でも、定員のために、なかよし学級を利用できないケースがあります。

こうした状況を鑑み、バンコク日本人学校では、個別の支援が必要な子供たちの多様な学びの場を拡充するため、**令和6年度より、小学部に設置しているなかよし学級を現在の3学級から、4学級に増やす**ことになりました。加えて、**中学部にも特別支援学級を新設**します。

それでも、日本国内の特別支援教育の体制にはまだまだ及びませんが、本校として、子供たちの教育的ニーズに応えられるように、特別支援教育の充実に努めています。

冒頭で紹介した低学年のAさん。朝の支度をしないまま、走って教室を飛び出した行為だけを見れば、「ルールを守らない子」と判断されるかもしれません。もちろん、ルールの面だけ見ればそうした見方もあり得るのですが、周りの友達の見方は違いました。「昆虫が大好き」で、「大好きすぎて、体が先に動いちゃう」子でした。こうした多様な見方、そして、友達の表面的な行動だけでなく、その背景や思いについて想像できる力こそ、子供たちに身に付けてほしい力です。

そして、虫が大好きで、体が先に動いてしまうAさんも、日本語教室に通っているBさんも、少ない人数で学んだ方が力が出せるCさんも、みんな同じクラスの仲間。みんな違って当たり前だし、学び方違って違って当たり前。いろいろな友達がいるから学校は面白い。そのような感覚を育みながら、多様性を認め合い、夢や希望をもって前進して行ってほしいと願っています。

